



デ

競馬場での実績をもとにして決める年令別競走馬のランキング——いわゆるフリーハンデの作成を、例年通り本会のハンデキャップ委員にお願いした。担当は、関東馬を木村正、吉田彰、浜学の三氏、また関西馬を児玉義雄、小野光雄、鈴木繁の三氏。関東、関西でそれぞれ上位五頭にランクされた三才馬について、簡単にレースを振りかえってみよう。

関東三才は、前年と同じように、朝日盃の勝馬が首位に選ばれた。56歳で単独首位のリュウゲキ(牡) カバーラップ二世(シンセイ)が、朝日盃で見たあの目の覚めるような力強い末脚は、まだ記憶に新しい処。その前、中山の一、二〇〇でも内側から鋭く追いあげたのであるが、この時はヒガシソネラオーにわずかに首差だけ及ばなかった。リュウゲキははじめ北海道で3戦(全部一〇〇〇)し、四着2回、三着1回と芽は出なかったが、10月中山での第一戦一二〇〇で、抜け出して楽勝、初勝鞍をあげたあと、すずき賞でも直線でアドミラルなど抜いて勝った。まったく典型的な追い込み馬といえるリュウゲキだが、その父カバーラップ二世は、アメリカで多くのスピード馬を出したアリバイ(ハイベリオン系)の孫。

39年度の関東三才馬はメスの当り年といわれたように、以下登場する四頭はすべて牝馬である。ハンデ55歳で第二位のフジマサ(持込 Ratification ラティファイケイション)ナ

イトライト)の7戦6勝、二着1回という戦績は素晴らしい。7月函館での初陣を大差で飾ったあと、同地でさらに1勝。次の札幌では10馬身差、一〇〇〇以1分0秒2のレコード勝ち、そのあともう1勝した。10月中山での緒戦は2.5歳軽い牡馬に、ゴール前の追い込みが間にあわず初めて土がついたが、一二〇〇で連勝した。6馬身差と鼻差、いずれも逃げるシエーンターを直線でとらえたものである。なお、フジマサの父ラティファイケイションは、血統、実績ともまったくのスプリンターといわれている。

54歳のハンデを得たのは、関西と同じく3頭あるが、まずナスノキク(牝) ソロナウエー(キクジュヒメ)は、北海道では出走せず11月東京の新馬戦が初レース。この時は四着、二週間後もやはり三着と続いたあと、12月の未勝利戦(一二〇〇)は、直線入口で先頭に立ちそのまま逃げ切り3戦目にして初勝利を得た。朝日盃を見送って出たひいらぎ賞(一六〇〇)でも、四角後トップに立ったまま快

調に逃げてアドミラルを寄せつけず、楽勝した。ビユーティロック(牝) チャイナロック(オーマツカセ)は10月中山での初出走に勝ったあと、三才ステークスはヒガシソネラオーの二着、楓ステークス(一二〇〇)はメジロマンゲツの五着、三才牝馬ステークスはハナガタミの三着といずれも勝運には恵まれないまま、迎えたのが朝日盃。当然人気は薄かったが、直線で見せた追い込みはすさまじく、ぐんぐんリュウゲキに迫り、ゴール前これと並んだが、結局首差だけ足りなかった。

メジロマンゲツ(牝) ソロナウエー(シスターサリ)は初出走の10月中山の新馬戦、楓ステークス、東京三才ステークスをいずれも逃げ込んで三連勝。朝日盃で二番人気にあげられた。このレースでも予想通り、懸命に逃げたのだが、直線坂下でリュウゲキ、ビユーティロックにかわされ、1/4馬身差で三着。さて、56歳で関西三才馬のトップにたったキーストン(牝) ソロナウエー(リットルミ

ツジ)は、7月函館での初舞台を10馬身差の庄勝で飾り、次の三才特別でも逃げが功を奏し、しかも59秒6のレコード勝ち。次の札幌で一〇〇にのびたが、これも10馬身差、1分12秒3のレコードというスピードで勝った。まる二カ月休んで11月の京都の一〇〇〇で今度は美事な追い込みをみせて、ペロナに2馬身差つけて制勝。二週間後の京都三才ステークス(一五〇〇)では再び逃げの作戦を採ったキーストンのスピードものすごく1分32秒の、同馬三度目のレコード勝ちを経験した。初出走後、5戦して土つかずの絶好調を今年も続けて、よくソロナウエーの代表馬たりうるかどうか、大いに期待したいところ。55歳で次位のダイコーター(牡 ヒンドスタンダイアンケー)は、初出走が11月京都とやや遅く、8頭だて一〇〇〇のこのレースは8馬身差で楽勝したが、二週間後の一〇〇

〇はキーストン、ペロナの三着におわった。このレースははじめてペロナとはげしく先頭を争い、けっきょく四コーナーでいっばいになったもの。しかし、12月のひいらぎ賞(一六〇〇)では終始好位置につけ、直線にはいつてから楽に抜け出して勝った。3戦2勝と戦歴は浅いが、特にひいらぎ賞での余裕シャクシヤクたる勝ちぶりで、その将来性を買われたのであろう。54歳のハンデを得て第三位になったのは、エイトクラウン、ペロナ、マサユキの3頭で、うち前2頭が牝馬。まずエイトクラウン(牝 ヒンドスタンアルペンローザ)は8月中京の初出走はパツとしなかつたが、翌月初勝利し、同じ9月京都の一〇〇〇では、シルバヤングに逃げられて二着。だが、それから三週間後阪神の野路菊特別(一四〇〇)で逃げ勝ちしたあと、さらに楓ステークス(一四〇〇

〇)、三才牝馬特別(一六〇〇)、農林省賞典阪神三才ステークス(一六〇〇)まで4連勝と好調を保った。なお、最後の阪神ステークスは1分37秒6のレコードタイム。以上みる通り、牡なら、当然トップハンデを課せられて不思議でない成績といえる。ペロナ(牝 ソロナウエーミスサカエ)は小倉で初出走後5戦して、宝塚三才ステークスなど3勝した。農林省賞典阪神三才ステークスでは前半独走態勢をしいたが、ゴール前脚色にぶって三着におわっている。マサユキ(牡 トサミドリミスハウシユウ)は、9月京都以来7戦して、勝鞍は一つしかないが、最後の農林省賞典での追い込みはすさまじく、レコードタイムながらエイトクラウンに鼻負け涙を吞んだ。以下はハンデ差はついているが力量はかなり接近しているようだ。

(関 東)

三 歳	四 歳	五 歳 以 上
リュウゲキ 56	ウメノチカラ 62	ヤマトキヨウダイ 66
フジマサ 55	フラワーウツド 59	メイゾイ 64
ナスノキク 54	ブルタカチホ 58	トースト 63
ビュートイロツク 54	カネケヤキ 57	シモフサホマレ 58
メジロマンゲツ 54	ヤマドリ 56	ミハルカス 58
アカツキオー 53	クリベイ 55	ハヤトオー 55
アドミラル 53	ハクズイコウ 55	フジノホマレ 55
ストロベリー 53	サンダイオー 54	タカチオ 54
トツプオーザ 53	ダイセイオー 54	ナスノミネ 54
ビガシソネラオー 53	アイエルオー 53	ハーバーヒカリ 54
ブツシヤン 53	メジロオーザ 53	ヒンドソネラ 54
キクノスズラン 52	ファイトモア 52	ミストヨベツト 54
シナノホマレ 52	トキノパレード 52	アサホコ 53
ハツユキ 52	オンワードストーム 51	クリライト 53
ハナガタミ 52	カミジホーブ 50	スズコトラベール 52
ブレブキツド 52	セイキヒカル 50	スイートラベール 51
ベスーピアス 51	フェアレデー 50	ダイニシマユキ 51
シエーターフ 50	ホマレキヨウエイ 50	スズカンゲツク 50
ハヤトモス 50	ミスカリム 50	パナソニツク 50
リコウ 50	ロードンセ 50	マツフジ 50

(関 西)

三 歳	四 歳	五 歳 以 上
キーストン 56	シンザン 63	リュウフオーレル 64
ダイコーター 55	オンワードセカンド 59	ヒカルポーラ 63
エイトクラウン 54	アスカ 57	コウタロー 60
ペロナ 54	バリモスニセイ 57	コウライオー 59
マサユキ 54	チトセターザン 55	パスポート 57
アストウエー 52	ホマレライサン 54	ゴウカイ 56
キヨウエイホマレ 52	ソロナリュウ 54	カブトフジ 54
シルバヤング 52	オーヒメ 53	イチミカド 53
タニノライジン 52	セントパワー 53	ヤマニドリ 53
チトセドラゴン 52	ブリマドンナ 53	マルニロール 53
ロードリオ 52	ヤマニルビー 53	ミルフオード 52
アマゾンソラ 51	ハクヨン 52	ソロナオー 51
カツコマ 51	ガルカチドリ 51	エースミヤコマ 50
サクセンファイター 51	アサヒダケ 50	トオル 50
トキノスルスミ 51	ダイイチヒカリ 50	トツブイーグル 50
ミスニホンピロー 51		
イソカズオー 50		
エブソム 50		
キタシンザン 50		
クミトツブ 50		